

富山高等専門学校

同窓会 会報



National Institute of Technology,
Toyama Alumni Association

Vol.2

2022年3月発行

編集・発行 富山高専同窓会
同窓会HP/nc-toyama-dousoukai.jp

令和3年6月28日に開催された
富山高等専門学校特別講演会で
校歌を演奏する両キャンパス吹奏楽部
(オーバードホールにて)



メールアドレスの登録をお願いします
詳しくは同窓会HP「お知らせ」をご参照下さい。

会長挨拶

挑戦と失敗の繰り返しを

富山高等専門学校同窓会長

117 稲積 佐門



同窓会の皆様、こんにちは。皆様いかがお過ごしでしょうか。本同窓会が発足し3年が経ちますが昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっており未だ出口の見えない状況が続いております。また、世界ではロシアによるウクライナ侵攻によって、毎日のように大勢の方が犠牲者となっているニュースを目の当たりにし、驚きとこの時代に本当に起きている出来事なのかと衝撃を受けると同時に、今までの平和で当たりまえの日常がいつまでもかわらず続いていくとは限らないということを改めて考えさせられました。

暗い話ばかりではありません。北京パラリンピックのクロスカントリースキーで富山県出身の川除選手が金メダルを獲得したという、富山県にとっては明るい話題もありました。明るい話題つながりにはなりますが、私事ではございますが、

今年1月に入籍し、春には小学生になる子どもの親となりました。自分にとって子育てというのは人生の中で今まで経験した事の無い事の連続ですが、できないなんていうことは言えず、当たり前ですが、やらなければいけません。それは学業、仕事、それこそ同窓会など全ての事に通じることだと思います。なにが言いたいかということ、経験したことの無い、やった事の無いことは、できなくて当たり前なのです。やってみて、失敗を繰り返し、できるようになる。そうやってできることが増えていくのです。若い会員が多い同窓会だからこそ、皆様にはできるかできないかではなく、何事にも挑戦と失敗を繰り返し、色々な場面で活躍して行ってほしいと思います。

最後になりますが、会員の皆様にはこれからも同窓会活動に対してご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学校長挨拶

校長の退任にあたって

富山高等専門学校校長
賞雅 寛而



本年3月をもちまして富山高専校長を退任いたします。

稲積佐門会長をはじめとして富山高専同窓会の会員および関係者の皆様には任期中の本校へのご支援・ご協力をいただき、心より御礼申し上げます。

平成29年4月に富山高専に赴任する以前は、射水キャンパスには何回か伺わせていただいておりましたが、本郷キャンパスは全くわからず、また高専の教育体系については存じ上げていませんでした。

教職員の皆様、そして同窓会・ほんごう会・北斗会を中心とするOBの皆様のご教示を得て、おかげさまで高専が、15歳から本科卒業の20歳まであるいは専攻科修了の22歳までの、人生の最も成長する時期に、先端的研究者・技術者から専門分野の基礎から応用までを習得できる世界でも稀有の教育システムであること、また先端的研究者から各分野の専門を習得するのは大学と同様ですが、



卒業式で卒業証書を授与。
卒業生・修了生の皆さんには、5年間あるいは7年間の富山高専の在学を常に人生の糧にさせていただけたらと思っています。

15歳からという最も学習効果の高い時期の習得は大学より優れている教育システムだということを理解できるようになりました（本校のキャッチフレーズ「15歳からはじまるカレッジライフ」はその特性を具現化したものです）。

本校は、工業高専と商船高専が統合した全国で唯一のスーパー高専ということが特徴ですが、赴任直後の本校は統合後8年たったにもかかわらずキャンパス間の交流がほとんど無く、本校の特性を生かしていませんでした。平成29-30年当時はまだ遠隔会議も一般化しておりませんでした。キャンパス別に集合で行なわれていた学内の会議を「ワンカレッジ」のスローガンのもと全学的に遠隔で行うようにいたしました。時間はかかりましたが、教職員の皆さんが遠隔会議に慣れてきたためということもあり、令和元年春のコロナ禍で全国の大学高専の中で最も早く遠隔講義を行えたという効果もありました。

また、同窓会も旧工業高専と旧商船高専の流れで2つに分かれたままでしたので、富山高専卒業生を「ワンカレッジ」として受け入れる新しい同窓会を、ほんごう会と北斗会の皆様と協議し設立できたことは幸甚でした。

本校がその特性を生かしてよりブランド化されるよう、すなわち「学生・教職員にとっては楽しく、中学生にとってはあこがれの、卒業生にとっては誇り」になるように、教職員一同努めてきています。

これからも同窓会の皆様のご協力も得て、卒業生の皆様に誇りにしていただける富山高専であり続けられることを、心より願っております。

令和3年度 富山高等専門学校同窓会

定期総会

日時

令和3年9月10日(金) 19時00分～

● Microsoft Teams によるリモート

令和3年度 富山高等専門学校同窓会定期総会を、令和3年9月10日(金)19時00分からMicrosoft Teams によるリモートで開催しました。

はじめに稲積同窓会長、来賓の賞雅校長より挨拶を頂き、高田副校長より母校近況報告を頂いたあと議事に入りました。予定の審議事項はすべて承認され、その後理事会からの報告が行われました。



賞雅校長

高田副校長

稲積会長

七軒副会長

令和3年度富山高専同窓会定期総会Web会議の様子

次第

1. 開会
2. 会長挨拶 稲積佐門会長
3. 来賓挨拶 賞雅寛而校長
4. 母校近況報告 高田英治副校長
5. 議事

審議事項

- (1) 令和2年度事業報告(案)について
- (2) 令和2年度決算報告(案)について
- (3) 令和2年度会計監査報告について
- (4) 富山高等専門学校同窓会会則・細則改正(案)について
- (5) 役員人事(案)について
- (6) 令和3年度事業計画(案)について
- (7) 令和3年度予算(案)について
- (8) その他

報告事項

- (1) 卒業後のキャリア調査について
- (2) 今後の新旧同窓会の体制について
- (3) 同窓会名簿について
- (4) 名簿の卒業学科の略称と期について
- (5) 同窓会報編集担当、名簿管理担当について

総会資料(抜粋)

○令和2年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告

令和2年 4月	入学式への出席(中止)(同窓会長)
5月 7日, 23日	令和元年度会計監査を実施
7月17日	第1回理事会を開催(Web会議)
8月 4日	理事会打合せを開催(Web会議)
9月 8日	第2回理事会を開催(Web会議)
9月29日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(同窓会長)
10月22日	新旧同窓会長と富山高等専門学校長との打合せを開催(Web会議)
10月下旬～11月上旬	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会への出席(書面による開催)(同窓会長)
令和3年 1月28日	理事会打合せを開催(Web会議)
2月 9日	第3回理事会を開催(Web会議)
3月 9日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事・中島理事)
3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(事務局長)
3月下旬	同窓会会報を発行

○会則改正

第1章 総則

(所在地)

現行 第2条 本会の本部は、富山高等専門学校射水キャンパス内に置く。

↓

改正 第2条 本会の本部は、富山高等専門学校校内に置く。

○細則の制定

役員交通費の支給基準

役員への交通費・旅費支給について(2020.7.17 第1回理事会(総会)承認事項)

【富山県内】

・理事会等に出席する際の交通費として、以下を役員に支給する。

学校で開催する場合：1,000円/回

富山駅近郊、駐車料金が発生する場合：2,000円/回

・支給方法：現金支給(受領の際に押印願う。)

【富山県外】

・独立行政法人国立高等専門学校機構旅費規則に則り支給する。

・支給方法：口座振込(別途手続きを要する。)

※細則について：会則第6章雑則 第20条参照

○役員人事(役員の改選)

副会長就任 国3 七軒彩香(事務局長兼任)

理事就任 国1 磯辺大地

理事退任 物1 岩崎裕太

※ その他の理事は留任

○令和3年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画

令和3年 4月 2日	入学式への出席(同窓会長)
令和3年 4月24日, 25日	令和元年度会計監査を実施
令和3年 6月10日	第1回理事会を開催(Web会議)
令和3年 8月19日	第2回理事会を開催(Web会議)
令和3年 9月10日	第1回総会を開催(Web会議)
令和3年 9月28日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(同窓会長)
令和3年 10月~11月	富山高等専門学校技術振興会理事会・総会への出席(同窓会長)
令和4年 3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事・中島理事)
令和4年 3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会活動説明(同窓会長)
令和4年 3月	同窓会会報を発行

○卒業後のキャリア調査※（事務局から同窓会員へ照会した調査）への回答状況

（※富山高専同窓会HP「お知らせ」 2021/7/12に掲載の調査）

「卒業後のキャリア調査及び総会の開催について（お願い）」 発送数：1,563名

そのうち住所不明による不達 59名

回答数 226名

今回の調査でメールアドレスの登録があった会員 109名

今回の調査でメールアドレスを登録しないと回答があった会員数 117名

参考：事務局が住所を把握している会員数 1504名

（郵便物を郵送しても宛名不明で返却されない会員数）

メールアドレスを事務局に登録している会員数 248名

事務局が進路を把握している会員数 572名（本郷119名 射水453名）

（本郷C卒業生704名（全卒業年）、射水C卒業生351名（R2.9卒以降）の卒業時の進路情報は

卒業生からの承諾書がとられていないため学生支援課から入手できていない）

今回の調査の結果より

・高専卒業後「就職」と回答した会員 117名

高専卒業後「就職」した就職先を回答した会員 112名

・高専卒業後「進学（在学中）」と回答した会員 62名

高専卒業後「進学（在学中）」進学先を回答した会員 62名

・高専卒業後「進学（既に就職）」と回答した会員 43名

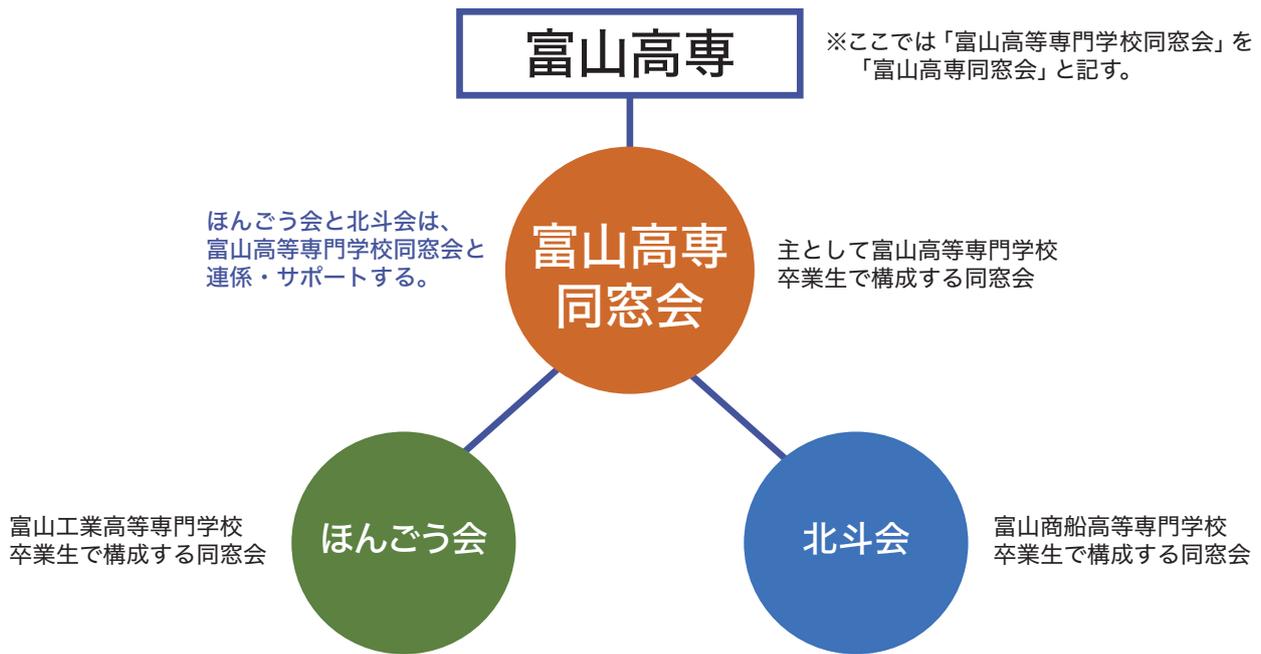
高専卒業後「進学（既に就職）」就職先を回答した会員 42名

・本設問に回答しなかった会員 4名

調査回答者数内訳

	機械	電気	物質	電子	国際	商船
2015.3/9 卒	2	3	7	1	8	1
2016.3/9 卒	2	2	5	8	1	4
2017.3/9 卒	5	4	3	4	8	2
2018.3/9 卒	4	4	5	2	5	4
2019.3/9 卒	4	5	2	6	6	4
2020.3/9 卒	8	8	11	5	6	7
2021.3 卒	14	11	13	8	14	—
合計	39	37	46	34	48	22

○今後の新旧同窓会体制について



○同窓会名簿について

同窓会名簿の作成および管理については、第1回および第2回富山高等専門学校同窓会理事会にて検討され、現在以下の方針で進めている。

1. 同窓会名簿はほんごう会、北斗会、富山高専同窓会の名簿を統合し、一元化して管理する。
2. 名簿管理は業者に委託する方向で検討する。
3. 名簿の情報として、住所・氏名・期・連絡先・勤務先等を管理する。会員にはその中で、業種・勤務先のみを閲覧できるようにし、会員から問合せがあった際には、業種・勤務先・年代を絞り込み、対応できるようにする。
(氏名掲載可能な会員は、氏名も掲載する)
4. 閲覧の結果、連絡したい人がいる場合は、事務局へ問い合わせる方法をとる。

○卒業学科の「略称」と「期」について

富山高専同窓会で用いられる卒業学科の「略称(記号)」と「期」が、ほんごう会・北斗会の同窓会と混同し、また同級生でも学科毎に「期」が異なり、とてもわかりにくい状況でした。そこで、統合後の平成27年3月の卒業生を「1期生」とし、学科略称はアルファベットではなく漢字の一文字を用いることにしました。

学科の略称は、機械システム→「機」、電気制御→「制」、物質化学→「物」、電子情報→「情」、国際ビジネス→「国」、商船→「商」とします。

例えば平成27年3月機械システム工学科の卒業生は、ほんごう会では「M47」、富山高専同窓会では「M1」と表記していましたが、今後富山高専同窓会では「機1」と表記し、本郷C・射水Cの同級生は同じ「期」の数字となります。

(同窓会HP参照)

令和4年度 定期総会 審議事項

令和3年度 富山高等専門学校同窓会 事業報告(案)

令和3年	4月 2日	入学式への出席(同窓会長)
	4月24日・25日	令和2年度会計監査を実施
	6月 4日	3同窓会長と富山高等専門学校との意見交換会
	6月10日	第1回理事会を開催(Web会議)
	7月	卒業後のキャリア調査の実施
	8月19日	第2回理事会を開催(Web会議)
	9月10日	第1回総会を開催(Web会議)
	9月28日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式後の同窓会への加入説明(水谷理事)
	11月 5日	富山高等専門学校技術振興会理事会への出席(同窓会長)
	11月中旬	富山高等専門学校技術振興会総会への出席(書面決議)(同窓会長)
令和4年	3月 2日	KOSENコラボフォーラム(富山高等専門学校技術振興会主催)への出席(同窓会長)
	3月 8日	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事・中島理事)
	3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(同窓会副会長)
	3月17日	3同窓会長と富山高等専門学校との意見交換会
	3月下旬	同窓会会報を発行

令和4年度 富山高等専門学校同窓会 事業計画(案)

令和4年	4月1日	入学式への出席(同窓会長(予定))
	4月	令和3年度会計監査を実施(予定)
	開催日未定	第1回理事会を開催(Web会議)(予定)
	開催日未定	第1回総会を開催(Web会議)(予定)
	9月22日	商船学科卒業証書授与式及び専攻科海事システム工学専攻修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(同窓会長(予定))
	11月	富山高等専門学校技術振興会総会への出席(同窓会長(予定))
令和5年	3月	新入生入学説明会における同窓会への加入説明(水谷理事・中島理事(予定))
	3月10日	卒業証書授与式及び専攻科修了証書授与式への出席・同窓会への加入説明(同窓会長(予定))
	3月下旬	同窓会会報を発行(予定)

母校近況



令和3年度
射水キャンパス学生会長
電子情報工学科 4年
大井 悠翔



クラブ紹介



1年生研修会

今年度は、どの行事もコロナウイルスに対応しながら開催しました。突然の変更にも対応できるよう対面と遠隔どちらでも開催できるよう様々なプランを計画し、情勢に応じて行事を行いました。またどの行事もteamsやformsなど、様々なツールを活用して行ったことで今後より学生が行事に参加しやすく、学生会が円滑に運営できるような基盤ができたと思います。コロナウイルスに適応していく時代の変化に合わせてながら活動したこの一年は、さらなる学生会の成長に繋がったと思います。

時代の变化に適應しながら進んだ一年

高専フェス

12月15日(水)に、射水キャンパス第二体育館で学生会主催の高専フェスを行いました。イベントでは軽音楽同好会やフリースタイルダンス部、今年度初出演の日本舞踊同好会が、日ごろの練習の成果を披露しました。また、会場内では抽選会も実施し、イベントを盛り上げました。感染防止対策として会場内の常時換気や入場時のアルコール消毒、ステージと観客の距離をなるべく広げて密の回避などを行いました。

クラブ紹介

4月5日(月)、6日(火)の二日間にかけて新入生に向けてクラブ紹介を行いました。密を避けるために2会場で開催し、各クラブ長より自分のクラブの特徴や魅力を紹介してもらいました。このクラブ紹介を通して射水キャンパスにしかないクラブや高専特有のクラブなどを知り、新入生が興味をもつ良い機会になったと思います。



軽音楽同好会



フリースタイルダンス部



日本舞踊同好会

母校近況

令和3年度
本郷キャンパス学生会長
電気制御システム工学科4年
茂住 晃平



球技大会

球技大会を開催しました

10月15日（金）に両キャンパス合同行事として、球技大会が開催されました。1～3年生は射水キャンパス、4～5年生は本郷キャンパスで競技を行いました。

当日は天候に恵まれ、計画していた全ての競技を無事に実施することができました。

クラス毎のチーム編成でしたが、両キャンパス学生が交流することができ、大変盛り上がりました。



ロボコン

今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染対策を考慮した上での学生会活動運営を余儀なくされました。今年度行った新たな試みは、コロナ禍における志峰祭の開催です。例年とは異なる環境の中で参加者が楽しめるように、企画局が中心となり準備に取り組みました。当日は規模を縮小し、1日のみの開催となりましたが、参加者の笑顔が絶えない行事になりました。また一部実施できないものもありましたが、その他の学生会活動運営も、部局間で協力しながら全うすることができました。

コロナ禍における学生会活動運営

ロボコン2021全国大会に出場しました

11月28日（日）に両国国技館でロボコン2021全国大会が開催されました。本郷キャンパスから、チーム「ロボドッラン」が出場しました。結果は、出場26チーム中14位でした。

学校と両国国技館では、競技会場の光度等の環境が大きく違いましたが、メカテック部の皆さんの調整により、無事パフォーマンスを行うことができました。

事務局からの報告

Ⅰ 全国高専卒業生キャリア調査アンケートに協力しました

高専の教育改善を目的として、東京工業高等専門学校が中心となり実施した「高専卒業生キャリア調査」に、本校からの依頼を受けほんごう会・北斗会がこの調査に協力しました。

本郷、射水のキャンパスを1984年3月から2015年3月までに卒業した卒業生からそれぞれ1,000名を無作為に抽出し、書面にて実施致しました。調査の内容は、

1. 中学時代のことについて
2. 高専時代のことについて
3. 高専専攻科や大学への進学について
4. 職業キャリアについて
5. 高専教育に対する評価について

の5セクションからなる計44の設問に及ぶアンケートでした。調査にご協力頂きました同窓の皆様には感謝いたします。なお、調査の回答状況は以下のとおりでした。

調査高専（14高専15キャンパス）全体の回収率 19.3%

射水キャンパスの回収率 15.2%

本郷キャンパスの回収率 19.7%

Ⅰ 富山高専同窓会が富山高専技術振興会から感謝状授与

令和3年11月5日（金）令和3年度技術振興会理事会がホテルグランテラス富山で開催され、令和2年度で役員を退いた富山高専同窓会稲積会長に、長年にわたる技術振興会への功績をたたえ、石崎技術振興会会長より感謝状が贈呈されました。



富山高専技術振興会理事会



感謝状が授与される稲積会長（右）

射水キャンパスから本郷キャンパスへ

柴田 博司



卒業生の皆さんいかがお過ごしでしょうか。今年度で定年退職となります電気制御システム工学科の柴田です。高専教員としての勤続年数は射水キャンパスと本郷キャンパス合わせて通算31年になりました。教員として本校に長く勤めさせていただき、両キャンパスの教職員、在籍学生および卒業生の皆様には大変お世話になり感謝いたしております。

振り返りますと、平成4年に旧富山商船高等専門学校の旧電子制御工学科に着任し、平成21年の統合後は、富山高等専門学校電気制御システム工学科に配置替えとなりました。平成22年度に新富山高専の入学生を受け入れた後の4年間は、旧富山商船高専の学生と新富山高専本郷キャンパスの学生の教育のために両キャンパスを往復する日々となっております。平成26年度からは富山高専本郷キャンパス専属となり、電気制御システム工学科の1期生を送り出しました。再編統合後はバタバタしておりましたが、両キャンパスの往来が多くなって私が不在がちなために、学生の皆さんには迷惑をかけたと思います。その後、学校の管理運営にも多く携わらせていただきました。いつの間にか本郷キャンパスでの教鞭生活も今年で12年目となりました。

本郷キャンパスの地を最初に踏んだのは、富山商船高専の男子バレーボール部顧問として、練習試合に引率で訪れたのが最初でした。平成10年ちょっとぐらいでしょうか。私の車にはカーナビがなく、紙の地図を頼

りに今は跡地がDIYになっている旧日清紡富山工場前を經由して、今も変わらぬ本郷キャンパス第一体育館前に車を停めました。まず最初に体育館横の階段からグラウンドを一望して、良い環境だなと思った記憶があります。当時はこの地で教鞭をとるとは全く想像できませんでした。当時の富山工業高専の男子バレーボールクラブ顧問の先生方には大変お世話になりました。その後、高専もいろいろと変わりました。まず、独立行政法人への転換は大きな変革でした。高専も機構組織の一員となり、学校の方向性の決定プロセスも大きく変わったように思います。学校の再編統合もその流れにあるかと思えます。そうこうするうちに本郷キャンパスを拠点として落ち着き、横の高速道路の救急サイレンの音も日常のひとつとなり、今では気にならなくなりました。

両キャンパスの教育を担当した教員の一人として思いますのは、どちらのキャンパスにしても高専の学生は優秀であるということです。学科間、キャンパス間というところと競争しがちではありますが、どちらのキャンパスであろうとも本校の優秀な学生の皆さんが活躍されてきていることは、教員として大変誇らしく感じます。長い教員生活において、いろいろなことがありましたが、日々の授業を通して学生の皆さんと共に学べたことが私にとって一番の幸せであったと思います。他人に教えることは自分が学ぶことであるとは、よく言われることですが、まさに実感として経験させていただきました。特に卒業研究や特別研究では、学生のみなさんのバイタリティに触れてずいぶん刺激されました。

卒業生のみなさんの思い出としてキャンパス風景は様々かと思えます。私が本郷キャンパスの美しい風景をあげるとすれば、迎岳寮前にある銀杏並木が秋に落葉して道路を埋め尽くす様が別世界のようで一番良いと思います。学生寮に在籍された卒業生以外はお存知ないのかもしれませんが。少子化問題など今後の学校教育システムが心配される昨今ですが、これからも美しい高専が存続し、優れた学生が輩出され続けることを切望するものです。卒業生の皆様のご活躍を祈念しております。ありがとうございました。



迎岳寮前の銀杏並木

富山高専赴任当初の思い出

電気制御システム工学科 西 敏行



「大学の研究室まで来てくれませんか」この電話がすべての始まりでした。電話の声は、大学で研究を指導して頂いた恩師のものでした。今から36年前1985年1月のお昼過ぎのことでした。当時、私は25歳で、勤めていたコンピューターメーカーを退職し、家でのおんびり過ごしていました。会社を辞めた理由は、長年の夢であったデザイン関係の仕事に就きたくて、デザイン専門学校で専門的な勉強をしたいと思ったためでした。このとき、既に専門学校も合格していました。

「学生時代に行っていた研究のことも聞かれるのかな」と軽い気持ちで出掛けました。教授の研究室に入ると、思いもかけない言葉が待っていました。「富山高専で高電圧関係の教員が欲しいそうだな。受けに行ってくれないか」私は、驚きのあまり声が出ませんでした。デザイン専門学校のことがあったため、一度はお断りしたのですが、とにかく受けるだけでも受けてくれば、ということで、面接に臨むことになりました。こうして富山高専で面接を受けることになったのですが、面接というよりは、校長室で校長先生、学科長の先生と私の学生時代の研究、高専での授業内容のことなどを雑談という感じで話し合っただけでした。その後、学科長の



本郷キャンパスから望む雪の立山連邦

先生のお部屋へ行き、「これは4月から受け持ってもらう授業の教科書だから、勉強しておいて下さい」と言われ渡されました。

こうして訳もわからずとんとん拍子に話が進み、気が付けば、新学期が始まり、授業がスタートしていました。担当する授業は、1、2年生の電気製図と5年生の高電圧工学、学生実験、卒業研究でした。授業なんてしたことがなく、学生時代の知識もほぼ忘れかけている状態でしたので、必死に授業の準備をしました。しかし、準備不足を授業は待ってくれません。初めての授業は2年生の電気製図だったのですが、誰も授業を聞いてくれず、学生は勝手にしゃべり放題、完全に学級崩壊状態でした。今から考えれば、学生と向き合わず、一人で黒板に向かって授業をしていれば、誰も聞いてくれないのは当たり前ですね。そんな授業を何回かしているうちに授業終了後に一人の男子学生が私の所にやってきました。何か質問でもあるのかな、と思ったのですが、出てきた言葉は、「こんな授業をしていて空しくありませんか？」でした。この言葉はかなりショックでした。これがきっかけで「自分は教員に向いていない。高専を辞めよう。」と心に決めました。でも、大学の恩師のことを思うとなかなか踏み切りがつかえません。

赴任してから2年経った頃、私に1年生の担任の話がきました。「授業もまともにできないのに、担任なんて絶対に無理」そう思ったのですが、結局、断り切れず引き受けざるを得なくなりました。そこで、「この担任を最後に、絶対に高専を辞めよう」と強く心に決めました。暗い気持ちで引き受けた担任。でも、担任として学生と向き合っていくうちに私の中で少しずつ変化が現れてきました。受け

持ったクラスは、とても素直で良い学生ばかりでした。私によく話しかけてくれて、髪を切ったときには、「その髪型似合いますね」などと言ってくれました。この1年間は特に問題も起きず、とても楽しく過ごせました。年度末に教室でクラス全員揃って記念写真を撮りました。出来上がった写真を見ると、みんなの笑顔の中に私もいる。何だかそれがとてもうれしくなって、「高専の先生も悪くないな、もう少し頑張ってみようかな」、という気持ちになりました。そのときの写真は今でも大切にしています。私の一生の宝物になりました。高専を辞めるつもりで引き受けた担任。それが逆に高専に留まるきっかけになるなんて縁とは不思議なものです。結局、私に足りなかったものは、学生の中にどんどん入って行くこと、学生目線で考え、自分も学生と同じ立場になってみる、ということでした。あのとき受け持った学生がそれを私に教えてくれました。あれから34年、とうとう定年を迎えます。もし、あのとき担任をしていなかったら、もうとっくにこの学校には居なかったことでしょう。人との出会いの不思議さ、ありがたさをつくづく感じています。

富山高専本郷キャンパスの周囲には、素晴らしい自然がいっぱいあります。目の前に広がる立山連邦、特に春先の雪山はとてもきれいです。高専のグラウンドには桜の木が何本もあり、春にはきれいな花を咲かせてくれます。高専赴任当初は、それらを見る余裕はありませんでした。やっとゆっくり見られるようになったと思ったら、もう定年です。富山高専を定年退職しても、まだまだ私の人生は続きます。これからも多くの出会いがあると思います。それらを大切にし、高専で得た経験を糧にして、これからの人生を生きていきたいと思っています。



本郷キャンパスグラウンド内の桜並木

定年退職にあたって



山腰 等

光陰は矢のごとく過ぎ去りますが、その間に悟ったことは、物事は成り難しということです。富山高専に赴任してちょうど30年目、退職のときを迎えました。その間、私に関わってくださった多くの学生の皆さん、教職員の皆さんに感謝申し上げます。

この30年、自分が成熟したと言う思いはほとんど無く、特に赴任当時は今思い返してもヒヤリとする失敗が数多くありました。部活動の顧問として全国大会等、他府県に学生を引率する機会に恵まれましたが、全国大会に出発する当日の朝、旅行会社がつくった日程表の富山発の列車の時刻が違っているのを見つけました。これは事前に確認しなかった私のミスです。正しい列車は出発時刻が早く、私は皆で行くのは無理かと思いましたが、部員全員に連絡がつき無事行くことができました。ホッとすると同時に、みんなが携帯電話を持っている時代でも無かったとき、高専生の機敏さ、まとまりの強さ、ポテンシャルの高さに改めて気づかされました。また、別の高専大会への移動中、私は学生の後ろからついていくことが多かったですが、その列にはぐれてしまい、駅のホームをうろうろし、発車のベルが鳴っている目の前の違う車輦にあわや乗りそうになったこともありました。自分をもっとしっかりしていると思っていましたが、学生をヒヤヒヤさせる迂闊な者であることを認識しました。

赴任した当時、学内にインターネットの環境はありませんでした。私は大学でのインターネットの経験があったので、古参の先生からインター

ネットとファックスとの違いは何か、というような質問を受けることが度々ありました。そのような時代でした。赴任した当時はまだ私はテクノロジーの先の方にいたのです。しかし、学校や世間はすぐに私を追い抜いていきました。今の本校のネット環境等にはもうついて行けなくなっています。しかし、まあそういうものだとも思います。「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」という言葉がありますが、それを実感として感じる日が来るとは思ってもみませんでした。

今日までの30年、私を支えてくれたのは、何にもまして学生の皆さんです。関わりの深淺にかかわらず、皆さんを近く遠くで日々眺めることは、私のエネルギー、授業への源になっていました。ノーベル賞物理学者ファインマンは、「物理を教えるには、一つの現象について複数の説明ができなければならない」というような主旨のことを言っていますが、最後までそのことを肝に銘じて授業できたことは幸いでした。探究心旺盛で純粋な学生の皆さんのおかげだと思っています。

老兵ではありますが、もう数年、嘱託として本校に勤務することになります。もう一つ、ファインマンの言葉に「もしも量子力学を理解できたと思ったならば...それは量子力学を理解できていない証拠だ」というのがあります。光陰は矢のごとく、物事は成り難く、私はまだまだあれこれ物理について考えを巡らしていくことになりそうです。現役の学生の皆さんにはもうしばらくお付き合いをお願いしたいと思います。

おわりのはじまりのとき思うこと

一般教養科 河合 均



平成3年の1月に富山商船高専に着任しました。恩師の富山大学の菅谷孝先生の推薦で、今のよう
に一般公募であったら就職できなかったでしょう。それまで、高専という教育機関のことをよく知ら
ず、中学の先輩や幼馴染が高専に進学した、と聞
いたことがあるくらいでした。今なら着任と同時
にいくつものオリエンテーションがあるのでしょう
が、当時は教務主事の矢崎先生にお話をいただ
きただけでした。学生主事が体育の石黒先生、寮務
主事が英語の飯田先生でした。最初の3か月は研
究室からあまり出なかつたので、何をしているの
だろうと先生方間でうわさになっていたようで
す。同室の布尾先生があまり他の先生と私の交流
を好まれなかつたからなのですが。

4月から1年と3年を中心に授業にでました。当
時は50分授業で、各学年とも「解析」3時間、「代
数・幾何」3時間（商船3年は2時間）でした。高
校生の世代の学生を教えた経験はなく、学生の
反応を見ながらの試行錯誤の毎日でした。当時は
学生がどうしたら勉強するのか、生活指導をどう
すればいいのか、教員間でよく話をしていました。
情報工学科4期生の田中君が東大編入を目指して
いて、金子先生が私たちの教員室の前に「編入同
好会」と張り紙を貼ったことがありますが、学校

がどのような方向に進むべきか、教員が話し合う
環境と雰囲気があったような気がします。2年目
に情報工学科7期生の担任を皮切りに、電子制御
工学科7期生、商船学科14期生、電子制御工学科
17期生、統合高専商船学科11期生の担任をさせ
てもらいました。

部活は男子バスケットボール部の顧問を仰せつ
かり、今に至っています。高校2年くらい15年間
くらいバスケットから離れていて、まったく勝手が
わからず、こちらも試行錯誤でした。電子制御工
学科の久保巖先生が退官されるまで一緒に、国際
流通学科の松尾先生、山田先生、海老原先生、英
語の山村先生と一緒にバスケットボール部の顧問
をやってきました。部活動は教員が評価する活動
ではないので、学生のわがままが出やすく、向上
心のある学生が多いときも、そうでないときもそ
れぞれ問題があり、苦労しました。

30年間、いろいろな学生との出会いがありまし
た。ひとりひとりが違う個性を持ち、違う悩みを
抱えていました。教育にセオリーはない、彼らとの
出会うことにより、教員として鍛えてもらったと思
います。どれだけ学生のためにできたかは分かり
ませんが、充実した教員生活を送らせてもらっ
たと思います。

思い出すこといくつか

高熊 哲也



富山高専にお世話になって22年の歳月が流れました。高等学校教員を経て高専に勤務したので、その経験が生きた部分と、新たに身につけて行かなければならなかった部分をすりあわていった日々だったように感じています。

赴任した翌年、初めて担任を受け持った機械工学科の卒業生たちが、卒業後開催日を固定して毎年同窓会を開いています。よほどのことがなければ欠かさず参加してきました。新型コロナウイルス感染症の流行の折リモートで実施するなど、律儀なものです。彼らも自分が担任した時の年齢を超え、今や社会では中堅層に育ち、いろんな方面で活躍している姿に接するたびに、この仕事に就いてよかったなと実感させられます。若かったので、学生との学生諸君との距離が近く、自分なりに誠実に向き合っていたのでしょう。仲のよいクラス作り、学生諸君の自主的な活動力を高めることに心がけていました。学級担任や学生主事補のような仕事は、高校勤務の経験も役だったようです。

一方、あまり縁がなかったというか、本当は避けていたと言った方がいいかもしれません。学生寮の仕事に携わったのは50代になってからでした。主事補の経験がないのに、いきなり寮務主事をせよとのご下命にいささか戸惑ったのを記憶しています。指導寮生たちがしっかりしていてくれて、概ね任せておけばうまく収まりがついたのですが、それでもトラブルや事故は発生します。この詳細は筆を省くしかありませんが、夜中11時を回ってから電話が入り、自宅から5kmの夜道を自転車

で何度か駆けつけたものです。4年間寮務主事を勤めましたが、年を追うごとに血圧が上がっていき、降圧剤を飲む羽目になりました。もちろん自分の不摂生が元だと言われればそうなのですが。

今はなくなりましたが、相撲大会を経験された同窓生の皆さんもおられると思います。当時の1年生を相手に、一番だけ、回しをしめて相撲を取りました。寮行事も時代に合わせて変遷していますが、こちらコロナ感染症防止のため縮小されたのは、大変残念なことです。

教員の負担軽減のため、学外から指導員を雇い、教員と組み合わせて宿日直を組む体制作りをすること、中期的な展望のもと学生寮の改修計画を立てることに取り組みました。今仰岳寮は、中央部に管理棟ができており、今年度中には4号館の全面改修が終了します。もちろん私の後の主事の先生方のお力ですが、先鞭をつけたことが形になったのを嬉しく感じています。

課外活動では赴任から10年くらいは、松井先生のもとで柔道部の顧問をしておりました。今でも柔道部は全国大会出場の常連校ですが、当時は筑波大学での合同合宿や、本校や岐阜高専が中心となつての強化練習会などがあり、部員も教員もかなりのエネルギーをかけていました。その時の経験が糧になって、課外活動でも学生諸君が力を出すためにどういうことができるかを学ばせて頂きました。

先述の指導寮生もそうですが、高専は4、5年生がプライドを持って下級生を導くシステムが強みです。その後指導した囲碁将棋部の指導で

は、成果を上げたと自負しています。囲碁や将棋は幼少から始めた子がどうしても群を抜くのですが、全く初心者で始めた学生でも4年ぐらまで継続して努力すれば、そこそこの実力がつきます。その上級生たちだからこそ、初歩の下級生たちへ適切なアドバイスができるのです。幼少から経験を積んで入ってくる子が、そういう流れに乗ってチームに溶け込むと、よい雰囲気になります。

全国高専将棋大会では優勝も果たし、常に強豪校として活躍してきましたし、女子学生も4人で延べ6回、個人戦で優勝しました。高校の大会でも、団体・個人・男・女問わず全国大会に出場して活躍してくれました。

本郷キャンパスは花木が豊かで、正面ロータリーの紅梅から始まって、春は白木蓮、桜、花水木、躑躅。桜は種類も豊富で、目立ちませんが寮裏にはソメイヨシノではない桜とこぶしが共演します。初夏から満天星（どうだん）、池の蓮。秋は金木犀が香り、花ではありませんが寮前の銀杏並木も鮮やかな緑から黄色にトンネルを作ります。冬場も椿が3月末まで花をつけており、1年中目を楽しませてくれます。1年掛けてキャンパスをめぐり、スマホで写真に収めました。新しい入学生たちが希望を胸に入学し、思い出を脳裏に刻んで卒業していく、大切な日々これからもエールを送りたいと思います。



新 | 副 | 会 | 長 | 紹 | 介 |

副会長就任挨拶

国3 七軒 彩香

同窓会の皆さま、こんにちは。

この度富山高専同窓会副会長に就任いたしました七軒です。

私は2017年に射水キャンパスを卒業しました。卒業後は県内企業にて働いています。学生時代は国際ビジネス学科でビジネスや英語、第二外国語として中国語を勉強していました。就職した今でも勉強した内容は役にたっているのではないかと思います。

新しい富山高専同窓会が発足してから3年が経ちますが、若い理事が

多いのでまだまだ力不足な部分もあり、加えて新型コロナウイルスの蔓延が続いており、思うような活動ができないこともありました。リモートによる理事会や総会など、色々なツールを活用し、できることから始めてみて活動をより活発なものにしていきたいと思っています。



令和4年3月10日 卒業式で同窓会活動を紹介する七軒副会長（オーバードホール）

同窓会の活動というのは、学生、同窓生、学校がより良くなるようにするのが仕事だと感じており、誰でも気軽に参加できるような親しみやすい同窓会を目指して活動していきたいと思っています。これからも同窓会会員全員で盛り上げていけたらいいなと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



新 | 理 | 事 | 紹 | 介 |

国1 磯辺 大地

新理事に就任した磯辺です。

学生時代は国際ビジネス学科1期生として英語や経済学を学んでいましたが、どちらかと言えば部活動や学校祭、寮生活など、学業ではない思い出が多いです（笑）

教官方に沢山迷惑かけたことをここで懺悔させてください…。

現在はYKK(株)で工作機械の部材調達を行うバイヤーとして働いています（YKKではファスナーを生産する設備も自社開発しています）。また、業務効率向上を推進する役割も担っており、「改善のタネ」を見逃さないよう目を光らせています。

プライベートではテキサスホールデムポーカーを嗜んでいます。ポーカーは日本ではマイナーですが、世界では競技人口が最も多いスポーツとして認知されており、アメリカではプロポーカープレイヤーが職業として認められている程です。いつか世界を舞台に闘うために精進しています（笑）

最後に、富山高専の学生が有意義な高専生活を送れるよう理事としてサポートできればと思います。よろしくお願いいたします！



近況報告

卒業学科の「略称」と「期」については同窓会HPを参照ください。

K14 田母神 啓

Q1 | 学生時代に力を入れて取り組んでいたことを教えてください。

在学中は・・・勉強はそこそこに友人作りに励んでいました（笑）生徒会や部活動、学校行事には積極的に参加していました。高専時代に出会った友人とは先輩、後輩問わず今でも近状報告をし合っていて、それぞれ別の道を歩み頑張っている姿から刺激をもらっています。10年来の友人が多かったことが今の私の財産になっています。

Q2 | 卒業後の進路を教えてください。

本科卒業後は・・・YKK株式会社で約6年間働いていました。在学中に身につけた語学力と貿易業務に関する知識を活かしたいと考え入社し、在職中は海外姉妹会社との受発注対応や輸出入書類の作成を行っていました。長期休みの度に海外旅行にいたり、サークルを作ってテニスに挑戦したりと充実した日々を送る中で、ここでもまた多くの尊敬できる同僚と恩師に巡り合うことができました。

Q3 | 現在はどんな仕事をしておられますか？

富山県氷見市で百姓をしています。野菜作りをメインに筍の栽培、林業にも取り組んでいます。会社を退社後WWOOF制度を利用して1人で九州1周旅をしました。この制度では有機農業を

しているお宅で農作業を手伝う代わりに食事や泊まる場所を提供してもらいますが、畑での作業がとても気持ちよくて、さらに採れたての野菜を使った料理のあまりの美味しさに感動して自分で農園を開くことを決意しま



◀ 師匠と枝豆収穫



した。九州での経験を基に現在は農業や化学肥料を使わない安心で安全、環境に配慮した野菜作りに拘っています。

Q4 | 高専時代の経験が今に活かされていると思うことはありますか？

個性あふれる在校生や先生、留学先で出会った海外の同世代の人達とのふれあいの中で視野や価値観、選択肢の幅が広がったことが大きかったです。時代や環境が日々変化する中で、誰にでも立ち止まって将来について考える時期があるかと思いますが、そんなターニングポイントとなるときに自分の可能性を信じて臆せず新しい世界に飛び込んでいけたのは高専時代に多様な考えにふれていたからです。そういった経験があったからこそ今自分が本当にしたいことに取り組んでいると思っています。

Q5 | 田母神さんの今後の目標を教えてください。

直近の目標は農業・化学肥料を使わずにお米、麦を栽培することです。いろんな作物に挑戦する中で体験会を開催して若い世代や子供達に食の大切さや自然の豊かさを知ってもらうきっかけの場にしたいです。世界の農業もみてみたいという思いがあるので、活動の場にとらわれることなく身につけた知識を次の世代につないでいくことで、日ごろお世話になっている方々に恩返ししていけたらと思っています。

Q6 | 同窓会の皆さんに一言お願いします！

最後まで読んでいただきありがとうございます。沢山のOG、OBがいる中で会報の記事の1人を選んでもらえて光栄です。農業や食に興味のある方、自然の中でリフレッシュしたいという方はいつでも畑に遊びにきてください！

制1 野上 光博

皆様、初めまして、東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻の助手の野上光博と申します。

私は今から12年前に富山高専本郷キャンパス電気制御システム工学科の1期生として入学し、その後、専攻科エコデザイン工学専攻に進学・修了しました。高専生だった当時のことを思い出すと、楽観的でお調子者だった自分を思い出します。そもそも中学生の時の自分は、家の近くに富山高専があり、朝遅くまで寝ていられそうという理由で高専を選んだぐらいでした。高専入学してからは、最初の定期テストでいきなり躓いたことを覚えています。負けず嫌いでもあった私は、そこからは勉強に本腰を入れていったことを思い出します。その後は、徐々に活動的になっていき、3~4年生時には学生会にも所属していました。そして、4年生の時に現在の私につながる出来事がありました。それは、原子力教育に関連する研修に参加したことです。このことをきっかけに将来原子力業界で働くことを志し、卒業研究では放射線計測に関連する研究を行っていた高田英治教授の研究室に所属することにしました。高田研究室は、精力的に研究を行っていて、数多くの外部実験や外部発表の機会を頂きました。学会等の場で大学生に出会うと、高専生だけど負けずと勝手に闘志を燃やしていたことを思い出します。

専攻科エコデザイン工学専攻を修了した後



は、東北大学大学院工学研究科量子エネルギー工学専攻の修士課程に進学しま

した。私の行きたい研究室が青森県六ヶ所村にあることもあり、進路を決める際に揺れ動いたことを思い出します。その際に、相談に乗ってくださった高専の先生方には大変感謝しております。東北大学に入ってから、高専時代に学んだCADを使った製図や電気回路の知識、物を作ったことがある経験が生きる場面が結構あります。こういったところが、高専から大学に進学した自分の強みになっています。

修士課程を修了後に助手として働き始め、早くも2年半経ちました。現在も高専時代と変わらずに、放射線計測に関連する研究に従事しており、博士号取得に向け日々励んでおります。高専在学時の私をみて、将来大学教員になると予想できていた人はいないのではないかと思います。そんな私ですが、原子力教育に関連する研修に参加したことをきっかけとして、現在は東北大学で放射線計測分野の最前線で研究を行っています。私自身も様々なことを勉強している最中ではあるのですが、富山高専OBの大学教員として後輩達に何かきっかけを提供できるよう精進していきます。

物4 山崎 真由

私は平成30年3月に物質化学工学科を卒業後、YKK株式会社に就職しました。現在は、テクノロジー・イノベーションセンターに所属し、開発に伴う試作品や新規材料における品質確認のために、金属および樹脂中の微量元素分析をメインに取り組んでいます。さらに昨今、縁あって本郷キャンパスの井上先生との共同研究に携わっています。

就職した当初は、分析結果報告書の書き方に苦労しました。様々な分野から分析依頼を

受けるため、元素記号にしてもカッコ書きで「C(炭素)」と表記する、「理

由+結論」で完結にまとめるなど、分析結果から得られた情報をより正確に相手へ伝えられるよう表現することを今でも心がけています。実務については入社後に覚えることも多くありましたが、高専時代に必修だった実験での



経験が、今に活かされていると思います。微量元素分析においては、分析試料を試薬で溶解し、定容、分析という流れが多く、学生実験にて、試薬・器具の取り扱い方や秤量・定容といった作業に慣れていて本当に良かったと思います。また、試薬性状や濃度計算といった知識も実務に結びついており、化学のベースがあったからこそ、比較的スムーズに仕事を覚えることが出来たと感じています。

また学生時代と比較して社会に出てから心境の変化もあり、目的意識をもって物事に取り組むようになりました。具体的には、まず「こうなりたい、こうしたい」といった目的をもって、そのために「何をすべきか」を考え、実行するといった、自分で自分の今後を選択していく機会が増えたと思います。学生時代は、い

つかの将来のためを思って広く様々な分野の勉強をしていましたが、今は、与えられた仕事に関わるセミナーへの参加や資格の取得に取り組んでいます。

入社して数年が経ち、最近仕事にも慣れ、分析結果を早く出すことで依頼者の方に感謝していただく機会が増え、やりがいを感じています。今は、元素分析をメインにしていますが、今後は表面分析や破面解析における分析スキルの向上や、有機分析における知識を増やし、自身でできる分析の幅を広げていきたいと考えています。

最後に、現在コロナ禍で制限の多い状況にありますが、一刻も早くコロナ感染症が収束し、クラス会等で同級生の皆さんと再会できる日が来ることを心から願っています。

情3 河合 怜



同窓会の皆様、お世話になっております。2019年に射水キャンパス制御情報システム工学専攻を修了しました河合です。この度は近況報告という形でご依頼を受け、こうして寄稿させていただきます。

私の在学していた電子情報工学科と制御情報システム工学専攻は、簡単に言えばソフト・ハード双方を満遍なく学ぶような学科となります。私の場合は、高専ロボコンへの参加や無線通信系の研究活動などちらかと言えばハードウェア寄りの分野を専攻していた感じかなというところでした。高専卒業後には都内のIT企業へ入社させていただき、今度は学生時代とは打って変わってソフトウェア寄りの仕事であるシステム開発やインフラの整備・管理などを担当しております。それでも高専で学んだことは基礎として仕事に活かしているという実感もあり、ハードウェア系の技術・知識についても、CPUの構成やFPGA関連など思わぬところで役に立つということもあり、高専でちゃんと本質的な部分を学んでいたのだなとしみじみと感じているところです。最近ではOSS関係の活動などにも業務を通して関わらせていただいております。時折イベントでの登壇などありますが、ここでも研究活動内での国内学会・国際会議での発表の経験が役に立ってくれています。もちろん、

高専での経験が全てだと書くつもりはなく、実際に仕事としてこなしていく上

で、システムの可用性やユーザ視点での使い勝手など、学生時代にはあまり意識していなかった部分も日々勉強させていただいていますが、想像以上に高専での経験が様々な部分で根付いているなど今振り返って感じております。

さて、私自身の近況報告としてはこれ以上書くことも特別ありませんが、近況という点では新型コロナウイルスについてもまだまだ話題に事欠かないものであるかと思っております。2020年に流行り始めて以降、今はリモートワークやDXなどが注目されはじめ社会のデジタル化がこれまで以上に進んで来ているご時世ですので、私としては自分の培ってきた技術を活用していれば少しは社会への貢献になるかとも思いながら邁進していければと考えています。そんなこんなで今回、電子情動的な視点での近況報告となりましたが、同窓会の皆さまについてもコロナ禍で大変かとは思いますが、様々な分野でのご活躍を祈念しております。そしてお体にお気をつけてお過ごし頂ければと思います。

同窓会事務局からのお知らせ

会員の皆様へ メールアドレスの登録をお願いします

富山高専同窓会では、メールアドレスを登録していただいた会員の皆様に、「同窓会からのお知らせ」（総会の開催案内や会報等の情報）をご案内します。ぜひともメールアドレスを登録していただき、同窓会活動へのご協力をお願いします。登録は同窓会HPのトップページを参照いただき、「登録はこちら」からFromsで入力下さい。

また、登録済みのメールアドレスを変更する場合も、再度登録願います。

変更のお知らせ 卒業学科の「略称」と「期」について

富山高専同窓会で用いられる卒業学科の「略称（記号）」と「期」が、ほんごう会・北斗会の同窓会と混同し、また同級生でも学科毎に「期」が異なり、とてもわかりにくい状況でした。そこで、統合後の平成27年3月の卒業生を「1期生」とし、学科略称はアルファベットではなく漢字の1文字を用いることにしましたのでお知らせします。

学科の略称は、機械システム→「機」、電気制御→「制」、物質化学→「物」、電子情報→「情」、国際ビジネス→「国」、商船→「商」とします。

例えば平成27年3月機械システム工学科の卒業生は、ほんごう会では「M47」、富山高専同窓会では「M1」と表記していましたが、今後富山高専同窓会では「機1」と表記し、本郷C・射水Cの同級生は同じ「期」の数字となります。

なお、統合前の学科の略称については、従来通りアルファベットを用い、旧工業高専、旧商船高専の間で略称（アルファベット）が重複する場合は、略称のアルファベットと漢字を併記することとしました。具体的には以下の通りとなります。機械工学科→「M」、電気工学科→「E」、金属→「K金属」、環境材料→「K環材」、工業化学→「C化学」、物質→「C」、航海→「N」、機関→「E機関」、商船→「NE」、情報→「I」、電子制御→「D」、国際流通→「K」

編集 後記

富山高専同窓会報の第2号をお届けします。今年は賞雅校長先生をはじめ6名の先生から退職にあたってのメッセージを頂きました。特に本郷キャンパスの先生方からはキャンパス内の樹木の美しさが印象深いと写真を寄せて頂きました。また、4名の卒業生の方々からそれぞれの分野で活躍されている近況の報告を頂きました。投稿頂きありがとうございました。

Web版で同窓会報を公開することによって、いつでも、どこでも、誰でも閲覧できるようになりましたが、印刷物として毎年直接会員に送付する場合と比べ、同窓会（事務局）と同窓会員との結びつきがどうしても希薄になってしまうことは否めません。そこで同窓会事務局は、会員の皆様に電子メールで「事務局からのお知らせ」を年に数回発信しています。しかし、若い方々からは「電子メールのアドレスを持っているけれど、着信したメールはほとんどチェックしない」とのことで、本会報の総会資料「卒業後のキャリア調査」に掲載されたように、自分のメールアドレスを同窓会事務局に登録している会員は1563名中わずか248名に留まっています。メールアドレスの登録は同窓の皆様と同窓会を結ぶ大切な連絡手段ですので、何卒ご理解いただき登録のご協力を下さいますようお願いいたします。登録については本同窓会HPのトップページをご参照ください。また同窓会事務局からのメール送信の差出しは「alumni@nc-toyama.ac.jp」ですので、くれぐれも迷惑メール等の自動振分けとなりませんようご配慮をお願いいたします。来年度は同窓会総会のご案内を会員各位に送信する予定です。

E機関35 水谷淳之介 記